

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】第 7 部門第 4 区分
 【発行日】平成30年5月17日 (2018.5.17)

【公開番号】特開2017-112708(P2017-112708A)
 【公開日】平成29年6月22日 (2017.6.22)
 【年通号数】公開・登録公報2017-023
 【出願番号】特願2015-244888(P2015-244888)
 【国際特許分類】

H 0 2 G 3/16 (2006.01)

H 0 5 K 1/02 (2006.01)

H 0 5 K 7/02 (2006.01)

【 F I 】

H 0 2 G 3/16

H 0 5 K 1/02 J

H 0 5 K 7/02 Z

【手続補正書】

【提出日】平成30年3月30日 (2018.3.30)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 6 0

【補正方法】変更

【補正の内容】

【 0 0 6 0 】

表 1 の結果から、試料 1 の回路構成体は 2 . 0 k V まで絶縁破壊が生じず、DC 2 k V 以上の高い電気絶縁性を有していた。これに対し、試料 2 の回路構成体は 1 . 8 k V で絶縁破壊が生じ、試料 1 に比較して絶縁破壊電圧が低く、電気絶縁性が低下した。これは、試料 1 では、ビアホールに穴埋め樹脂が充填され、穴埋め樹脂が充填されたビアホールを覆うようにレジスト層が形成されていることで、レジスト層と粘着シートによって電気絶縁性が十分に確保されたものと考えられる。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 6 1

【補正方法】変更

【補正の内容】

【 0 0 6 1 】

試料 3 の回路構成体は 2 . 0 k V まで絶縁破壊が生じず、試料 1 と同様に高い電気絶縁性を有していた。しかし、試料 3 では、熱圧着する必要があるため、試料 1 に比較して作業が煩雑で生産性に劣っていた。また、試料 3 では、接着シートの基材に高価なポリイミドフィルムを用いているため、接着シートの価格が高い。これに対し、試料 1 では、粘着シートの基材がセルロース製不織布であり、粘着シートは接着シートに比べて安価であるため、部材費を削減できた。